

2020年11月25日

「第2回日経SDGs経営大賞」にて「環境価値賞」受賞 ～総合ランキングでは2年連続最高位にランクイン～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、「第2回日経SDGs経営大賞」にて「環境価値賞」を受賞しました。「SDGs経営」総合ランキングにおいては、昨年に続き2年連続で最高位である「★★★★★」（偏差値70以上）にランクインしました。

当社は、長期経営構想「キリングroup・ビジョン2027(以下、KV2027)」において、「食から医にわたる領域で価値を創造し、世界のCSV^{※1}先進企業となる」ことを目指しています。今年2月にKV2027の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針「キリングroup CSV パーパス（以下、CSV パーパス）」を新たに策定しました。「CSV パーパス」実現のため、2017年に策定した「CSV コミットメント」を見直し新たに成果指標を設け、2019年中計の非財務指標として掲げました。事業戦略と連動させることにより、グループ全体で社会的価値を創出するとともに、競争力強化と事業の成長という経済的価値につなげてCSV経営を深化させます。

※1：Creating Shared Valueの略。お客様や社会と共有できる価値の創造

■長期非財務目標「キリングroup CSV パーパス」図



【「第2回日経SDGs経営大賞」表彰式にて】
 左端：キリンホールディングス(株)
 代表取締役社長 磯崎 功典

当社は、100年以上前から、農作物や水を原料とし、製造過程でも酵母という生命の営みを利用したものづくりと自然資本に依拠したビジネスを行っています。今年2月には、社会と企業のレジリエンス強化へ向けた新たなビジョン「キリングroup環境ビジョン2050」を策定し、ネガティブインパクトの最小化にとどまらず、社会にポジティブなインパクトを与え、地球を次の世代につないでいくことを目指して取り組みを進めています。

当社は2018年に日本の食品業界で初めてTCFD^{※2}（気候関連財務情報開示タスクフォース）に賛同しました。2018年、2019年にはシナリオ分析により、気候変動が将来的に農産物の収量に及ぼす影響、および原料農産物生産地や国内製造拠点・物流経路における洪水や水ストレスなどの水リスク、さらにはカーボンプライシングがキリングgroupの炭素排出コストへ与える影響を評価しました。今年も、感染症や熱中症のリスクと機会についても分析しています。さらに、製造工程におけるGHG^{※3}削減の取り組みについては、グループのGHG排出量削減目標を2030年までに30%削減（2015年比）と掲げており、日本の食品業界で初めてSBT（Science-based Targets）^{※4}イニシアチブ（SBTi）^{※5}の承認を取得しています。徹底した省エネ活動に加えて、燃料転換の実施、国内自社ビール工場へのヒートポンプの導入、太陽光発電や風力発電、水力発電由来の電力の活用、および排水処理設備から得られるバイオガスを利用した発電などの再生可能エネルギーの活用、容器軽量化や共同配送を含むバリューチェーンでのGHG削減の取り組みなどを進めています。さらに、今年6月には「Business ambition for 1.5℃」に署名しました。これは長期的なGHG排出量ネットゼロの実現に向け、中期的なGHG削減目標を上方修正することを表明するものです。2020年中にこの新たな目標に対して、SBTiの承認を取得する予定です。また直近11月には「RE100」へ加盟、2040年までに使用電力の再生可能エネルギー100%化を実現します。

※2：The Task Force on Climate-related Financial Disclosures の略

※3：温室効果ガス

※4：パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準(Well Below 2℃)に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

※5：2015年にCDP、国連グローバルコンパクト、世界資源研究所およびWWFの4団体で設立されたイニシアチブ

また「KV2027」で掲げている、当社が長年培ってきた高度な「発酵・バイオ」技術をベースにして、人々の健康に貢献していく「ヘルスサイエンス領域」（ヘルスサイエンス事業）の立ち上げ、育成を進めています。その一つとして、キリングループの35年の研究から生まれた独自素材「プラズマ乳酸菌」を使用した商品をグループ横断で展開し、昨今お客様の体調管理意識が高まる中、健康維持に貢献していきます。

酒類メーカーとしての責任としては、世界保健機関（WHO）を中心にアルコールをめぐる議論が高まる中、新たな飲み方として、適量のお酒をゆっくりと楽しむことを提唱する「スロードリンク」による飲酒マナーの啓発を、若者向けの動画作成などにより推進しています。今年には新しいお酒の楽しみ方「オンライン飲み会」での「スロードリンク®」の推奨などのメッセージを発信しました。

原料産地の支援については、以前より紅茶葉の重要な生産地スリランカで、茶葉農園の「レインフォレスト・アライアンス認証」^{※6}の取得を支援し、今年から新たにベトナムのコーヒー農園の支援も開始しています。また、長野県上田市のシャトー・メルシャン自社管理畑「椀子ヴィンヤード」を中心に、生態系の再生を含む自然豊かなブドウ畑の育成に取り組んでいます。

※6 環境、労働、経営のすべてで、より持続可能であるかどうかを認証する国際的な制度

今回の調査ではこういった取り組みを評価いただいたと考えております。

キリングループは、「酒類メーカーとしての責任」を果たし、「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」という社会課題に取り組むことで、こころ豊かな社会を実現し、お客様の幸せな未来に貢献します。

■ 参考

・「キリングループ CSV パーパス」

www.kirinholdings.co.jp/csv/purpose/

・「キリングループ CSV コミットメント」

www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/

・「キリングループ環境ビジョン 2050」

www.kirin.co.jp/csv/eco/mission/